
[た よ り]

常任理事会だより

山川智之*

本稿では、前号で報告後平成16年7月23日、9月24日、10月22日、11月26日の4回開催された常任理事会の内容のうち主なものをお伝えします。

1. 新潟県中越地震の発生と医会の対応

10月23日17時56分頃、新潟県中越地方でM6.8の地震が発生し、最大震度7（新潟県川口町）が観測されました。その後最大震度6強の余震が発生するなどの活発な余震活動もあり、新潟県中越地方に大きな被害があったのはご承知のとおりです。透析施設では、新潟県下3施設（長岡中央病院、小千谷総合病院、小千谷総合病院十日町診療所）で透析不能となりました。

日本透析医会では、地震発生直後より災害情報ネットワークによる被害状況の情報収集を開始、発生翌日の24日に災害対策本部を事務局において立ち上げ、被災透析施設の支援を行いました。地震発生が土曜日の夕刻で、翌日が日曜日であったため、日曜日中に透析ができない3施設の透析患者について、患者移送、転院などにより翌日以降の透析を行う目処をつけることができました。被災3施設のうち、長岡中央病院、小千谷総合病院十日町診療所は11月27日より透析を再開、12月1日には小千谷総合病院も透析再開しております。

本医会では、被災施設および被災透析患者受け入れ施設に対するボランティア派遣の斡旋を行い、日本臨床工学技士会を通じ10月29日から11月11日まで合計6名の臨床工学技士を派遣しました。また、すでにご案内の通り被災地区の透析施設に対し支援のための募金活動を行いました。ご協力いただきました皆様には心より感謝申し上げます。

また、医会杉崎専務理事が直接被災地に入り支援活動および状況取材を行いました。この取材の成果も踏まえ、今後医会では様々な形で会員の皆様に災害対策の情報提供をしていきたいと考えております。

また日本透析医会ホームページ（<http://www.touseki-ikai.or.jp/>）の「会員のページ」では、「災害対策の常識ウソ・ホント」と題した記事を掲載し、災害対策に関する意見交換の電子掲示板を設置しました。会員の皆様の忌憚のないご意見をお待ちしております。なお、「会員のページ」は閲覧に際しIDとパスワードが必要です。会員の方々には郵送でID、パスワードをお知らせしておりますが、わからなくなってしまったという会員の方がおられましたら事務局までお問い合わせください。

* 日本透析医会常務理事

2. 三者合同会議

去る11月12日、日本透析医会、日本透析医学会および医療機器メーカーの業界団体である日本医療器材工業会の代表者による三者合同会議が行われました。自動回収装置を含む逆濾過促進型血液浄化法、特定保健医療材料、エンドトキシンフィルターなど多岐に亘る問題について意見交換を行いました。その中でも透析回路の共通化については、メーカー側の要望も強く、今後、本医会でも一層力を入れてイニシアチブを発揮していきたいと考えております。

3. レセプト調査の集計結果

第8回のレセプト調査の集計がまとまりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。180施設の有効総数8,388枚のレセプトについての集計を行ったところ、夜間加算、障害者加算、手術料を含まない一回の透析医療費は2,984.3点と、ついに3,000点を切っています。詳細につきましては日本透析医会雑誌20巻1号でご報告いたします。

4. 医会支部の動向

京都府（透析医会）支部が35番目の支部として結成されました。支部長は京都第一赤十字病院の岩本則幸先生が就任されます。また、透析医会奈良県支部は長らく支部長が不在でしたが、浜野クリニックの浜野正義先生が就任されました。